



第22号
 発行 平成18年10月10日
 発行所 文化女子大学室蘭短期大学同窓会
 室蘭市高砂町3丁目11-50
 印刷所 株式会社アイワード

雑感

同窓会会長 下澤和枝
(旧姓 小室 保一)



「光陰矢のごとし」一年が経つのは本当に早い。毎年、すみれの発行を思う時、特に感じられます。

今年はスポーツの世界で私にとって感動的な事が二つありました。一つはサッカーワールドカップにおいて、応援する姿に「愛国心」「祖国愛」というような文字が私の脳裏をかすめた事。

普段は全く縁遠い言葉なのに私だけではない、日本人の心にあふれていた事に驚きと一種の安心感が湧いた事。それに惜しまれて去っていくヒデの引退にもまた驚かされました。常に自分のすべてを出し切ってプレイをしていたのでしよう。そんな彼だから早すぎる引退にもご苦勞様を言いたい。そして新しいことに挑戦する彼にもまた大いに応援したい。彼ならきっとどんな世界でも成功するでしょう。もう一つはつい先日のご事です。今年の高校野球は燃えました。駒大苫小牧が三連覇をかけて挑んだこの大会でした。いろいろなことを乗り越えてやっと手にした甲子園へ

です。

日本と韓国の間にある領土問題や戦後処理の問題など難しい外交問題が山積みする中、お互いを知ることから解決の糸口は開けると思っています。私は草の根運動の草の根という言葉が好きです。大地に根を張り媚びること無く黙々と生きることを重んじて小さな力も大地を揺るがしたり守ったりもする。個人のレベルでの相互理解がなくて近道なのではないかと思えます。韓国に関して、特に、悪い印象は持っていません。これはこの韓流ブームの産物の一つだと勝手に思っています。世界の中の日本を考える時いろいろなしがらみの中とても微妙で難しい立場ではありますが、私にできることは、まず個人のレベルで周りの国を知ることが先決かなと思えます。

それからこの一年、心配な事もたくさんありました。「子供受難」「耐震偽装」など毎日のように新聞を賑わせています。「母性の欠落」家族の絆の欠落が特に見られた一年でもありました。耐震偽装に関して、たまたま主人が世間をにぎわせている一級建築士であることもあって勉強させられました。世の中何が起るかわからないと言っているのに正直驚いています。家族の絆の欠落に寄るものも多かった。「見えない子供の「心」」を大人がいかに察する事が出来るかがキーワードですね。私自身、一人の子供しか育て

ておらず、また間違いだらけの子育てでしたが、先輩からの寅の巻きの一つ伝授します。「勉強以外で好きなこと、興味のあることを継続してさせる」ことで、余計なことを考えさせないで済んだかな!と思えます。将来、それを仕事としたり、また趣味として続けていく事が出来れば、それはとても幸せな事だと思います。

私事、その愚息が今年一月に結婚しました。子供に関しては、結婚したからもう安心と言うことはありません。電話が鳴るたび、息子からじゃないか?嫁からでないか?と以前と同じく心配している私にいます。親と云うのはいくつになっても子供の心配をして、年若い行くものなのだと自分の親の想いと重ね合わせています。「子を持って知る親の恩」「無償の愛」今、私は六十歳に近くなってやっとそれを理解出来る年齢に到着したところです。

ゆく川の流れは...



主事 水野 隆

鴨長明の『方丈記』に「ゆく川の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず、よどみに浮ぶうたかたは、かつ消え、かつ結びて、久しくとどまりたるためしなし」という一節がありますが、ひとつ所から見ると周囲の変化して行く様子がよく分かります。短大の周辺についても同じことが言えると思えます。

短大のすぐ前にあったホームストア高砂店が先日とうとう閉店してしまいました。短大が開学した時からずっとあった店ですし、私の家では普段の買い物によく利用していました。

用していた店でしたから、いざ無くなってみると淋しいし不便さも感じます。日曜日などは、近くに住む卒業生とばったり会って、店の中で立ち話をしたことなどを思い出します。

そう言えば、工大前にあった生協も何年前に無くなって今は更地になっています。喫茶店「道」も無くなりました。東高の横にあった「ポナール」や短大前の「マドモアゼル」が無くなったのはいいことだったのでしょうか。今は喫茶店でお茶を飲むこと自体ほとんどなくなりました。

短大の周辺で増えたものは学生用のワンルームマンションとコンビニでしょう。昔の稲月商店も栗橋商店も宮本商店もすべて今はコンビニになってしまいました。

東高は今年から商業高校と統合されて東翔高校という新しい学校になりました。ベネディクト女子高校は海星学院高校と名前が変わって男女共学になりました。

街のかたちはそこに住む人たちの営みの結果です。住む人が代われば街のかたちが変わります。それは決して悪いことではありません。ただ、新しいかたちになかなか馴染めず古いかたちを懐かしむのは個人的な郷愁に過ぎないのですが、それでもやはり、もういちど「清雅」のおばちゃんを作ったラーメンを食べてみたいのです。

新同窓会員

入学式



フレッシュマンキャンプ



学園祭



卒業式



謝恩会



Bunka Women's University Muroran J.College Reunion



4 東京支部

TOKYO

気分はセレブ!

5月18日、例会の日です。久しぶりの顔合わせなので、みんなに会うのが楽しみ!

ところは、東京丸ビル。たまにはセレブ気分(少々無理はあるけど...)に浸ってみようとワインを片手にランチと洒落てみました。

いつもの元気な顔ぶれが揃って、まずは最上階(36階)へ。生憎この日は、小雨混じりのため眺望は今ひとつ。でも、眼下に皇居や丸の内界隈を一望することができ、雨に濡れた若葉の緑がそれらを覆い尽くし、何となくノスタルジックな思いに誘われてしまいます。マイナスイオン効果ではないけど、木々の若葉が自然の中で育った私たちをリラックスさせ、リフレッシュさせてくれるから不思議です。気分は上々。気取りもなく食事をとりながら、楽しく話している姿は真に井戸端会議そのもの。やはりセレブは無理のようですね。

支部役員は7名、みんな同世代で年の差は4~5歳といったところです。中高大学生をもつ親であったり、親の介護、職業婦人、孫の子守りと生活スタイルは多種多様、毎日が忙しそうです。



支部長 内田かよ子 (旧姓 成川) 服3

私たち似たところがあって、どんなに忙しい生活をしていても、やっている仕事充実していたり、楽しかったりすると平気で乗り切れるタフさがあるようです。



この日も、一つ一つのテーマを丁寧に取り上げ、七色の意見が飛び交い、前向きな話にどんどん膨らんでいきます。

自分自身が納得のいく充実した活動をするために、自分の意見を言い、また人の意見にも耳を傾けられる。そこが支部活動を盛り上げている理由なのかもしれないですね。

次の例会は、本校(文化女子大学)を予定しています。若い人たちからエネルギーをもらって元気ハツラツ、若返ってようかな?

総 会

11月3日から3期目に入り、役員改選になります。正式には総会を開催し決定すべき事項ですが、諸々の事情により紙上総会とさせていただきます。下記役員の承認をお願いいたします。

会計報告

平成17年度決算報告 (H17. 4~18. 3)

収 入	金 額	支 出	金 額
繰越金	342,428	会議費	3,596
支部費		通信事務費	28,340
本部より	57,000	支部行動費	59,499
15年度バザー立替分	10,409	本部行事費(バザー)	42,075
16年度バザー立替分	42,075		
ミニ同窓会費	60,000		
雑収入	46,334		
利息	3		
計 (イ)	558,249	(ロ)	133,510
収支差引次期繰越額 (イ)-(ロ)		424,739	

平成17年度会計監査の結果、相違ないことを認めます。
平成18年4月1日

会計監査 綿引 恵子
山中 久子

バザー協力のお願い

「1年って早いわね...今年は何を作ろうか?」等、今年も第一声はこんな会話から始まりました。

皆様からバザー作品のご協力を頂いてから早4年になります。支部からの作品提供に対して本部役員から毎年、感謝のこぼしを頂き、会員皆様のご協力があるとのことと心からお礼申し上げます。ありがとうございます。

毎回バザー収益金の一部は、学生自治会へ補助金として渡され、役立てていただいております。

昨年度は更に地元福祉関連の施設や学校への寄付金として役立たせて頂いたとの報告を受け、少しずつですが私たちの活動が地域に広がりを見せています。

母校発展のために、少しでも役立っていただけるなら、支部役員も心新たに「できる時 できる事を できるだけ」を合言葉に、今年も11月の文大祭に向けて力を合わせて取り組んでいきたいと考えております。作品作りに際しましては、これまで以上に本部にエールを送りたいと思いますので、一人一点でも結構ですので多くの方々からの作品のご協力をお待ちしております。



*作品は手作りとし、どのようなものでも結構です。
*締め切りは10月25日(水)とさせていただきます。
*送り先 〒332-0016 埼玉県川口市幸町1-4-28
内田かよ子
TEL 048(256)6896

*お問い合わせは
TEL・FAX 049(254)8750
又は0294(37)2315
担当 石田和子まで



連絡先

東京支部は文短同窓会の窓口として関東近辺のみ皆様からの情報を受けております。疑問・質問・何でもお気軽にご連絡ください。 内田かよ子まで

本校の廊下で見つけたポスター

文化祭の収益金はカンボジアの小学校建設に使われると書いてありました。学生の皆さん凄いですね。



ミニ同窓会

昨年の10月1日六本木ヒルズの南イタリア料理「レスタジ」で同窓会を行いました。

おいしい料理を堪能しながら旧交を温めました。カンパもありがとうございました。



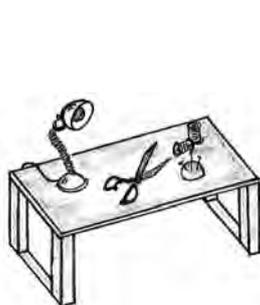
短大時代 2 思い出の文机

宇羅 範子 (旧姓 坂東 服3)

今年三月、実家の父が亡くなりました。母も既に他界しており、今は誰も住むことのない家へ、家財道具の整理に帰省しました。

札幌もゴミの処理には決まり事があり、少々面倒でもリサイクルできる物は、ということで業者を頼みました。そんな家財道具の中に小さな文机がありました。小さくて、古くて、傷も沢山あり、あまり上等なものではなかったけれど、これはゴミとして処分されるのだからと買いました。ところが、それは買い取りリストに入りました。その文机は、私が三十五年前、室蘭短大に入学生、学生寮へ入ることになり、父が注文で特別に作ってくれた机でした。

妹たちは「エッ?こんな古い机、買いとってくれるの。」とビックリ。私もビックリ。その時、三十年以上前の事が、いろいろ思い出されました。学生寮は鷺別町の近くにあり、学生四名で2DKのアパート



に自炊しながら生活していました。先輩一名と同級生三人で、食事の支度は四日に一度順番がきます。特に多かったメニューは、お店で買ったコロケ。その言葉に驚いた母が旅の途中で立ち寄り、手作りのトンカツを持ってきてくれました。課題の作品が出来なくて徹夜で仕上げ、早朝、近くの海まで散歩に行ったり、文大祭の打ち合わせで、本当はだめだった寮生以外の学生も泊まり、皆でワイワイ。もう沢山の思い出が次から次へと出てくるのです。父と母が私の大切な青春をとっておいてくれたような気がして、文机を売るのは中止しました。妹たちに「これ、私、持って帰ることにしたわ!」と言ってしまいました。今、その文机と随分体型のちがっている洋裁用の人形をどうやって埼玉の自宅へ運んでようか、毎日考えています。

「温泉旅行」

11月5日土曜日登別パークホテルにて行われました温泉旅行に参加しました。地元の登別市に住んでいながら、銭湯感覚でお風呂に入りに行く事はあっても泊りがけでゆっくりと温泉につかるという機会がなかなかできなかった私ですが、今回は温泉と美味しいカニ料理とビール(実は自分で作らないのが嬉しい!)そして先生を交えての楽しいおしゃべりを堪能させていただきました。



9期 菖蒲

今年も開催!

バザー★サロン

「文短を元気にする会」では今年も文大祭11月3日(金)4日(土)の両日、バザー&サロンを開催します。たくさんの方の御協力のお陰で4回目を迎えることが出来ました。

毎年バザー作品は、一目目でほとんどの作品が売れてしまうほど大変好評を頂いており、今年も布物、リース、アクセサリーなどを中心に同窓生の心温まる手作り作品が並びますのでどうぞお楽しみに!!

お買い物の後は是非サロンでおくつろぎ下さい。コーヒーorジュースを学生さんの手作りクッキーを付けて販売しております。同窓生の皆さんはもちろん、小さなお子さんを連れて遊びに来て下さる近隣の若いお母さん達の姿も増え、会場は和やかな雰囲気になっていきます。



一度足を運んでみませんか!! お待ちしております。尚、収益金の一部は学生自治会と地域施設に還元しています。

今年も同窓生による託児をしました!

6~7月にかけて短大保育科主催の次世代育成セミナーの講座が一般市民に向けて計7回附属幼稚園で行われました。

当日は学生と一緒に幼児から小学生までの託児をしたのですが、昨年も託児をした子がいてなつかしい再会になりました。お手伝い下さった方々、本当にありがとうございました。

これからも皆様の力を借りて同窓会として出来ることはバックアップしていきましょう。



附属幼稚園だより

保育科12期 藍原佳子

文化女子大学室蘭短期大学附属幼稚園の開園は一九七六年の春。そして、今年三十周年の記念の年です。

今まで、一四二六名の卒園生が附属幼稚園を巣立っていきましました。今、幼稚園では秋に予定している記念事業に向けて準備を進めているところです。

十周年、二十周年の時と同様に在園している子ども達との「お祝い会」、小学生や中学生を園に招いての「同窓会」、そして、それ以上の卒園生や保護者との「記念式典、祝賀会」

卒園生や保護者の中には、一年位前より、そろそろ三十周年の頃では?と声をかけてくださる方もいて、今までの幼稚園のあゆみの中で、この節目に当たる記念行事がしっかりと位置づいているのを感じながら準備をしています。

『不易流行』—かわらない事と、時にしたがってかわる事、という芭蕉の俳諧用語なのだそうですが、この頃は幼稚園の集まりや、関係文書の中でよく目にする言葉です。今、



「元気にする会」からのお願い

今年も会ではバザー&サロンの参加協力をお願いしています。バザー作品(手作り品なら何でも)を提供して下さい。当日販売その他をお手伝いして下さい。又、隔月の第3土曜日、例会を行っています。こちらもぜひ御参加下さい。楽しいメンバーでのおしゃべりも楽しいです。

連絡先・石井(保3期)
TEL 0143-86-3182

幼稚園を取り巻く環境が色々変化している時で、その中にいる私達は、ちょっとでもその流れに遅れまいとして必死で情報を集め、なんとかそこに身をおいています。でも、ふと我に戻って、この言葉をかみしめ、幼稚園のあるべき姿を考えたりしています。

この秋、お祝いの時に集まってくる人達が、附属幼稚園が時と共に変わってきただけに出会い、変わらぬものを感じ、一緒に楽しいひとりが過ごせるように、式典までの残りわずかとなった日々を大切にしながら準備を進めているところです。

オリジナルを楽しんでいる私

富田 恵美子 (旧姓 刑部) 服装学科 六期 八期生

枯れない夢のお花プリザーブドフラワーをご存じですか? 生花に特殊加工することで生花のようにみずみずしさと柔らかな質感があり美しさを保ち長く楽しめるフランス生まれのお洒落な加工花です。まだまだ知名度の低いプリザーブドフラワーを多くの人々に知ってもらいたく文章にする事にしました。

国際プリザーブドフラワー講師になりまだ二年ですが、過去のいろいろな勉強により、独自のオリジナルデザインで作っています。講師になって一年間は何か活動する事もなく、他の勉強に励んでいました。昨年の十月、協会主催のオリジナルの作品展に初参加した事がきっかけとなり、今年の三月には友人達に励まされ助けられて初個展となりました。二日間でしたが多くの方々に足を運んでいただき、とても感謝しております。常に愛らしく上品で美しい作品作り心がけられる心でありたい。短大で学んだ作図、色彩は特に私のプリザーブドフラワーオリジナルデザインの

基礎であると思います。試行錯誤の作品製作の完成時は喜びも大きく、それが私の励みであり楽しみです。今は以前から習っている全書芸や深雪アートフラワーの師範資格を目指し楽しく勉強中の私ですが、これからの三十年をどのように生きるかを考える時、自分の特技を生かせるボランティアにも興味があり、無理せずゆっくりと何かの機会があればと思っております。今年文大祭十一月三日四日バザーのボランティアに初参加できる事となり、楽しみが増えました。これからもオリジナルティ溢れる作品を制作しながら、スローライフを楽しんでいきたいと思っております。



お知らせ

昨年度スタートした新学科のコミュニケーション総合学科が来年度からの学生募集を停止することになりました。新しい試みでしたが、なかなか理解してもらえなかった事と少子化で学生数の減少が響いたようです。当面は保育科だけの学科でやっていくようです。

寂しさはぬぐえませんがこれも時代の流れと受け入れるしかありません。とても寂しい限りです。

編集後記

「元気にする会」では最近とても活発な意見やアイデアが飛び交うようになり、会として少しずつ充実したのになってきていると実感しています。ただ若い人の意見や想いが見えない聞こえない事

がとても残念です。母校が瀕死の重傷を負っている今、私たちに出来ることを日々模索していますがなかなか名案もないまま、この「すみれ」を発行する事で母校に関心を寄せてくれる会員が一人でも増えてくれることを願っています。投稿もお寄せ下さい。お待ちしております。(K・S)